

妻の敦子さんとともに「自分自身の人生を振り返るよい機会を与えていただいたことに感謝しております」と話す大西さん(左)



京阪  
守口

### 珠算教育を通して少年たちへの矯正活動に尽力

守口門真珠算協会会長 浪速少年院篤志面接委員協議会会長

## 大西 信二 さん

「珠算教育への評価であり、藍綬褒章の受章は私一人のものでない。珠算の仲間をはじめ先輩、後輩の珠算教育の関係者のご指導とご支援のたまもの」。

大西さんは立命館大学3回生のとき、珠算塾を始め、大学卒業後、商業高校教諭として23年間勤務。その間、自分が担任していた生徒が傷害事件を起こした。浪速少年院に収容されて矯正教育を受ける中で、大西さんも勤務高校の空き時間を利用して毎月、民間人ボランティアとして少年らに15年間珠算指導を行った。1988年6月からは同少年院で篤志面接委員に委嘱され、96年7月、篤志面接委員協議会研究大会で「少年院での珠

算指導」を研究発表。通算44年間の珠算教育の活動が評価されて藍綬褒章を受章した。妻の敦子さんと上京し、皇居で天皇と対面した思いをこう綴る。「天皇の一言ひとこと 頭(こうべ)垂(た)れ『社会のために』お言葉 賜(たまわう)」

12月18日、北区のリーガロイヤルホテル大阪で開かれた記念祝賀会では同少年院の大河内徹院長、平井治守口門真商工会議所会頭、金沢勇大商学園理事長、森友建日本珠算連盟元理事長らが出席し、受章を祝った。

大西さんは「今後も微力ながら、珠算教育を通して少年たちへの矯正活動に努めたい」と話している。(大山)